

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ◆ 高い知性、豊かな人間性、健やかな心身を持ち、将来、世界の様々な分野で活躍できる素質を育てる学校。
 - ◆ 国際人としてのグローバルな視野を持ちつつ、地域を愛し、地域に積極的に貢献する意欲を持った人材を育成する学校。
- (1) 国際教育及び科学教育等の推進を通して国際間の各種問題に関する教養を身に付けさせるとともに、習得した幅広い知識や技能を生かして未来社会をリードする人材を育成する。
- (2) 高い学力や自学自習力の他、自ら課題を見つけ、リサーチ・考察し、その解決法を提案・発信できる力を醸成する。
- (3) 校外の各種団体との連携を図り、地域の教育拠点校として様々な活動に取り組むことを通して地域社会に貢献する。

2 中期的目標

1. 新しい時代のキャリア教育

第5期科学技術基本計画において我が国が提唱する未来社会 Society 5.0を見据え、人工知能の発達やグローバル化のさらなる進展など、これからの変化の激しい時代を生き抜き活躍するための能力の育成を図る。

※ 目標：国内 SGU や海外の大学等などが行う A0 入試や多面的な評価での入試に強い学校を作り上げ、令和4年度には当領域での合格者数 30 名 (H29:17 名、H30:18 名、R1:16 名) をめざす。

- ア 課題研究等の取組みを通して「自ら課題を見つけ、調査・研究し、分析・考察を行う」能力と「知り得た知識や情報を他の者にうまく伝える」能力の育成を図る。
- イ 国内大学のグローバル化、海外の大学への進学ニーズに対応するとともに、A0 入試や多面的評価入試 (課題研究・長期・短期留学論文等) への対応を図る。
- ウ 国際教育の充実を図ることを通してグローバルキャリア観を醸成する。

2. 確かな学力への取組み

(1) 「魅力的な授業」「わかる授業」の実現と自学自習習慣の確立

※ 目標：授業アンケート「(項目8)興味関心」「(項目9)知識技能」の肯定的回答率について毎年85%以上 (H29:86.3%・87.4%、H30:81.3%・83.3%、R1:80.2%・82.5%) を長期的に維持する。

※ 目標：令和4年度には授業外学習時間を週10時間以上行う生徒を35%まで伸ばさせる (H30:23.3%、R1:26.9%)。

- ア あらゆる教育活動を通して主体的・対話的な教育実践を行うとともに、教員自らの学びを推進することで授業の質の向上をめざす。
- イ 授業アンケート結果に対して分析を行うことで、問題点を明確にして授業改善に取り組む。
- ウ 生徒の自学自習を支援し、自ら学ぶ力を深めるように助力をする。自習環境を整備し、自学自習の習慣の確立をめざす。

(2) 国際理解教育の充実

※ 目標：令和4年度には、卒業時に CEFR (セファール) B2 以上 (英検準1級、TOEFLiBT72 点、IELTS5.5 など) の取得者年 10 名以上 (H29:8 名、H30:6 名、R1:5 名) を達成する。

- ア 国際人としての広い視野と感性を育て、グローバルな社会で活躍できる人材の育成を行う。
- イ コミュニケーション能力を向上させ、留学や、海外の大学への進学を推奨する中で、世界を視野に入れた人材づくりを行う。
- ウ 国際関係学科設置校、WWL 連携校及びユネスコスクール加盟校として、姉妹校交流をはじめとする海外の学生との交流を積極的に行い、体験活動を通して国際性に富む人材を育成する。
- エ TOEFL、TOEIC、英語検定などの資格試験に積極的に挑戦し、自ら語学力の向上を図る生徒を育てる。

(3) 科学教育の充実

※ 目標：科学系コンテストにおいて、年間に3件以上 (H29:1 件、H30:1 件、R1:3 件) の入賞をめざす。

- ア SSH 事業の指定校として、その取組みを深め、グローバル社会を牽引する科学的素養を有する人材を育成する。
- イ 五感で体得する理科授業をめざして、多くの実験実習を授業に取り入れ、その効果的な活用を行う教材を開発する。
- ウ 高大連携、大学訪問研修等を実施し、高校と大学の科学教育のスムーズな接続を行うとともに、生徒の学習意欲を高める。

3. 進学保障

生徒一人ひとりの進路について、自ら目標を立て、可能性を追求し挑戦する態度を養い、学びの接続を理解し、実現できる生徒を育成する。新しい大学入試制度に柔軟に対応できる進路指導体制の充実を図る。

※ 目標：令和4年度には国公立大学合格者数 30 名以上 (H29:16 名、H30:26 名、R1:27 名)、関関同立 180 名以上 (H29:127 名、H30:124 名、R1:128 名) をめざす。

- ア 進路情報の的確な提供と、きめ細やかな進路選択の指導を行う。
- イ 進学補習を計画的に実施し、進路を実現するための学力向上を図るとともに、専門学科の学びを理解させ、家庭等での学習時間の伸長を支援する。

4. 開かれた学校づくり

(1) 地域と連携し、「地域の教育拠点」としての機能を果たす。地元堺市が SDGs 未来都市であることを踏まえ、SDGs の No11「住み続けられる街づくりを」の具現化に取り組む。

- ア 地域の小中学生や住民に対しての科学講座や英語教室等を実施し、地域の科学教育、国際教育の中核としての地位の確立をめざす。
- イ 堺市社会福祉協議会及び地元自治会、地元企業、NPO 法人等との連携を深め、各種イベント等への積極的な参加をめざす。

(2) 学校の特色ある教育活動について幅広く情報発信をすることにより、中学生を含む地域の方々に本校への理解を深めてもらう。

- ア 学校説明会の充実を図るとともに、学校 HP を含め様々な情報メディアを活用し、きめ細やかな情報の発信を行う。

5. 活気と規律があり、生徒が安心して生活できる学校づくり

生徒一人ひとりを大切にするとともに、自主性の向上をめざす。

※ 目標：令和4年度には遅刻総数 1500 名以下 (H29:3272 名、H30:2662 名、R1:2641 名)、部活動への入部率 85% 以上 (H29:87.4%、H30:83.5%、R1:79.4%) をめざす。

- ア 個別に支援が必要な生徒への対応について、校内の組織を整備するとともに、きめ細やかな運用を実施する。
- イ 部活動を活性化し、参加者を増加させるとともに、その内容の充実を図る。また、学習と部活動を両立することのできる生徒を育てる。
- ウ 基本的な生活習慣を確立し、規律ある行動をとることのできる、社会性の豊かな生徒を育成する。
- エ 生徒会活動を活性化し、学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させ、「生きる力」を育む。

6. 教職員の資質向上

(1) 学校力向上のための職員研修の充実

- ア 教職経験の少ない教員のスキルアップを図るためテーマ別の研修会を開催する。
- イ 職員人権研修を計画的に実施する。

(2) 教職員の働き方改革

- ア 時間外勤務の削減のため、教職員への啓発と意識改革を図る。
- イ スクラップ&ビルドによる業務のスリム化や様々な方策による働きやすい職場環境づくりを進めるとともに、業務内容に応じて勤務時間の割振りを柔軟に行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>◇項目1「泉北高校での充実感」について、生徒、保護者、教員ともに高い肯定率を維持している。本校の教育活動について、全体的に理解を得ていると認識している。今後も継続を図りたい。</p> <p>◇項目2「授業改善」について、生徒の肯定率が5ポイント上昇し80%を超えたが、一方で教員は約7ポイント下落している。教員の新しい教授法へのチャレンジ(試行</p>	<p>【第1回(令和2年7月31日(金)／書面送付による意見集約)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの関係で、授業外学習時間がどれくらい変動するのかに興味がある。 ・自学自習する生徒を育てるという目標にするならば、例えば、「最低でも5時間はやろう」ということをスローガンに、学年ごとに具体的な数字を示せば、自学する生徒を明確に作るという意味合いになり、段階的に向上するかもしれない。 ・大学進学目標と結果について、府大+市大(大阪公立大)、大教大、和大的希望者が、地域柄保護者生徒には多いように思う。やはり、府大、市大に合格者は出て欲しいところだ。 ・SSHの中間評価は上から3番目に位置しているが、さらに上のランクをめざして引き続き取り組まれることを願う。

府立泉北高等学校

<p>錯誤)が生徒に好意的に受け取られていると考えられる。引き続き授業の工夫改善を追求したい。</p> <p>◇項目4「講習への参加」は生徒の回答が10ポイント以上上昇し50%を超えた。また、項目27・28「学習の記録・計画的な学習」についても数値がアップしており、喜ばしい。しかしながら十分に浸透しているとは言えず、指導を継続したい。</p> <p>◇項目7「生徒活動活性化」について、生徒、保護者とも肯定率が数ポイントアップした。コロナ禍の中で工夫して取り組んだことが数値に表れており、各種行事等についてどうすればできるかを考えて実施したことを高く自己評価したい。</p> <p>◆項目8「異文化理解や国際交流の機会」項目9「平和、社会のルール、人権の尊重、生命の大切さなどについて学ぶ機会」について、生徒、保護者とも肯定率が下落(特に8は10ポイント以上)している。これはコロナ禍の影響で海外研修を中止したり人権HRの回数を減らすなど、十分な活動ができなかったことが要因と認識している。次年度の復活を期したい。</p> <p>◇項目11・12の「進路指導・キャリア教育関連」の肯定率は概ね高位維持。引き続き各取組みの充実を図りたい。</p> <p>◆項目14・15「地域との交流関連」は生徒、保護者とも3～4割に留まり、教員の数値も大幅に下落した。新型コロナの影響もあると考えられるが「地域の教育拠点校」としては寂しい数字であり、交流の機会と参加者数の増加と併せて、情報発信の充実を図る必要がある。</p> <p>◆教員については概ね高い自己評価であるが、例えば項目5「教育相談」や13「いじめ対応」については生徒・保護者との認識に乖離が見られる。自戒して取組みを進めるとともに、生徒の気持ちに寄り添った指導に努めたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> SSHの事業計画書は、よく練られている。SSH、SGHの報告書は丁寧にまとめられており、生徒や担当教諭の努力の跡がよく分かる。 引き続き、地域の生徒が進学したい学校として、地域とのつながりを大切に発展されることを期待する。 コロナとの戦いとなる本年は学校運営をより大変にしていることではあるが、一日一日安全安心に泉北生の皆さんが充実した高校生活を送られますよう願って止まない。 部活動等以外でも他校と交流する機会をもっと増やしていけたら互いに切磋琢磨できてよいのでは感じる。 <p>【第2回(令和2年11月27日(金)／本校会議室)】</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン講義を充実させてほしい。 大学ではオンラインツールを用いて講義をしている。高校でも利用してはどうか。 双方向のオンライン環境についても、いざ必要な時になって始めるのではなく、前もって準備しておくこと。 英検対策をしてもらってありがたい。遅刻が多いように見える。 国公立大学の入学人数が目標を達成できていない。目標の設定を考え直す必要があるのでは。達成可能な設定にしておかないと、評価が厳しくなる。 高校に必要な資金が用意できないのであれば、地域社会に働きかけて募金を募ってはどうか。公費のみに頼らず、教育活動を援助する仕組み作りを検討すべき。 <p>【第3回(令和3年2月5日(金)／書面送付による意見集約)】</p> <p>○令和3年度学校経営計画について、すべての委員の皆さまよりご承認を受けた</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断結果について、生徒から見た授業改善が5%も上昇した。コロナ禍にあつてICTなどによる教員の教授法の試行錯誤を生徒が好意的に受け取っているようで、素晴らしい。 SSHの取組みは相変わらず素晴らしく、SSHの伝統校として継続できることを願う。SGHはなくなったが、「SDGs未来高校」への意気込み、堺市や南区との連携など、独自の視点で社会とかかわる発想こそが、これからの社会を形成する上で大切なことで、大変誇らしい取組みである。地域に根差した視点・活動は、地元を活性化させ意義深い。 国際交流の学習機会確保について、今年度の悪条件を考えると満足度が下がったことはいたしかたない結果であると思うが、それだけ泉北高校が継続している教育活動への、生徒や保護者からの関心や期待の大きさを感じる。 国公立大大学への進学目標と、達成成果との乖離は、少々気になる。今後、対応策についてご検討頂きたい。 いじめについては支援会議やいじめ防止対策委員会、アンケートなどを実施しているが、SNS上のいじめ、部活の先輩による後輩いじめなどは表面化しにくい面があると思われる。アンケート結果だけに頼らず、担任や部活の先生などが学生の態度や人間関係を日々の学校生活の中で注視してあげてほしい。 コロナ禍の中、様々な行事の簡素化や変更・中止を余儀なくされている状況ではあるが、安全第一に生徒たちが心身ともに成長し充実した高校生活を送ることを願う。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 新しい時代のキャリア教育	ア 次代に求められる能力の育成 イ 進学の多様性への対応 ウ 国際教育の充実によるグローバルキャリア観の醸成	ア ・SGH事業及びSSH事業で培った知識や技能を踏まえ、課題研究の計画的実施とさらなる充実を図る。 ・課題研究への取組みと進路への導線づくりのため、生徒の3年間の取組みについてキャリアパスポート等を作成し活用する。 イ ・探究的な活動に基づいた統合的取組みを進路実現に結びつける。多面的な評価による入試枠での受験とともに、国内SGUへの進学を推奨する。 ・留学や海外進学の説明会を行い、留学や海外の大学への進学推奨を一層進める。 ウ ・海外スタディーツアー(修学旅行)、姉妹校等海外の学校との交流を継続するとともに、国境を越える活動やグローバル企業への訪問、有名大学生とのディスカッション等を行う「プロジェクト型海外研修」を実施する。	ア ・課題研究発表会の開催 イ ・AO入試や多面的評価入試での合格者数20名以上(R1:16名) ・長期留学派遣年2名以上(R1:1名) ・短期留学派遣年3名以上(R1:2名) ウ ・海外の学校との交流機会7回以上(R1:7回)	ア ・課題研究発表会を開催 国際文化科2回(10/2・2/5) 総合科学科2回(8/1・11/26) (○) イ ・多面的評価入試等での合格者数18名 (△) イ・ウ ・コロナ禍のため、留学派遣及び海外の学校との交流は未実施 次年度は実施可能となった時点で再開する (-)
2 確立 業」の 現と自 学自習 習慣の 授	ア・イ 授業改善 ウ 自学自習の習慣確立	ア・イ ・授業力向上をめざした研究授業を実施する。 ・授業見学月間(6月、11月)を実施する。 ウ ・自習室の環境向上に努め、利用の推進を図る。 ・生徒に手帳等の活用によるスケジュール管理について指導し、授業外学習時間の増加をめざす。 ・卒業生を活用し、学習活動をサポート(多言語学習支援等)する。	ア・イ ・生徒による授業アンケートの肯定率「(項目8)興味関心」85%以上(R1:80.2%) 「(項目9)知識技能」85%以上(R1:82.5%) ・テーマを定めた研究授業の学期毎実施 ・授業見学を行った教員85%以上(R1:82.5%) ウ ・授業外学習時間 週10時間以上の割合30%以上(R1:26.9%)	ア・イ ・授業アンケートの肯定率 興味関心83.7% 知識技能84.9% (△) ・コロナ禍のためテーマを定めた研究授業は未実施 (-) ・コロナ禍で授業見学月間を設定できず (-) ウ ・授業外学習時間 週10時間以上28.1% (△)
(2) 国際理解教育の充実	ア・イ・ウ・エ ・グローバル人材の育成 ・SGH事業の継続 ・国際交流の実施 ・英語力の底上げ	ア・イ・ウ・エ ・令和元年度までのSGH事業について、効果的な取組みの継続を図る。 ・プロジェクト型海外研修を実施するなど、海外の学生等との交流の機会を確保する。 ・NETを効果的に活用し、英語によるプレゼンテーション能力及び会話力を向上させる。 ・生徒の英語4技能の能力の底上げを図るため、生徒のニーズに合わせた資格検定試験の受験を奨励する。 ・スピーチコンテスト(2学年国際文化科)及びプレゼンテーションコンテスト(1学年全員)を実施する。 ・総合科学科において、「科学英語プレゼンテーション」を開講し、課題研究等において英語での口頭発表やポスター発表を実施する。 ・総合科学科のグローバルコース選択生は、研究成果を英語で発表できることをめざす。 ・ユネスコスクール関連行事等に参加し、交流を深める。 ・ユネスコスクールとしての活動を継続し、ボランティア活動の一助としてESDパスポートを活用する。	ア・イ・ウ・エ ・CEFRB1以上(英検2級・TOEFLiBT42点・IELTS4.0など)取得者100名以上(R1:98名) ・海外の学校との交流機会7回以上(R1:7回)【再掲】 ・総合科学科課題研究の発表要旨を全グループが英語で作成 ・ユネスコスクール関連行事等への参加年1回以上(R1:1回)	ア・イ・ウ・エ ・英検2級196名 準1級9名 1級1名 (◎) ・総合科学科課題研究について アブストラクトを英語で表記し、発表 (○) ・コロナ禍のためユネスコスクール関連行事には参加せず (-)

府立泉北高等学校

(3) 科学教育の充実	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> SSH 事業の推進 グローバル社会を牽引する人材の育成 五感で体得する理科授業 高大連携 	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題研究の成果と進学実績への結びつきを意識して、国公立大学の A0 入試や公募推薦での合格をめざす。 課題研究を深めて、科学系コンテストや学会での発表件数を増加させ、コンテストでの入賞をめざす。 理数理科での実験実習の実施率を維持するとともに、より効果的な新しい実験・実習に取り組む。 高大連携講座及び大学訪問研修を継続する。 海外高校生との合同研究や発表を行う。 	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 国公立大学及び高等専門学校のア0・公募推薦の合格者5名以上 (R1:4名) 科学系コンテストや学会での発表件数のべ10テーマ以上、入賞3件 (R1:のべ10テーマ入賞3件) 以上 実験の実施率30%以上 (R1:28.0%) 高大連携講座及び大学訪問研修の実施 海外との合同研究発表の実施 	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者5名 (○) 科学系コンテスト等発表件数9件、入賞なし (SHH 生徒研究発表会1件/大阪府学生科学賞2件/第16回共生のひろば1件/第13回日本地学オリンピック1件/大阪府生徒研究発表会(サイエンスデー)第1部2件/同第2部1件/科学の甲子園大阪府大会1件) (△) 実験実施率:コロナ禍の中控えのため26.3%に留まった (○) 高大連携講座(阪大・市大・府大・関大・龍谷)参加者146名 大学(府大・近大)訪問研修をZOOMを用いた双方向オンライン講座として実施。参加者119名 (○) コロナ禍の中、海外との合同研究はできなかった (ー)
3 進学保障	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路情報の提供 補習等の実施 	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 高い目標を持ち、進路実現に向けて挑戦する態度を養う。 進路 HR で進路選択に関わる情報提供(大学・予備校の講師による進学講話等)を行う。 オープンキャンパスへの積極的な参加を奨励する。 校内実施の外部模試受験により、学力状況の共有と学習目標設定への活用を図る。(データ分析に基づいた科学的なアプローチによる学力向上を図る。) 長期休業中の希望講習の充実に努める。 	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者数増 (R1:27名) 関関同立合格者数 15%増 (R1:128名) オープンキャンパスへの2年生全員参加 外部模試の校内実施(いわゆる自宅受験を含む)1年1回(R1:1回)以上、2年2回(R1:2回)、3年3回(R1:4回) 	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者15名 関関同立合格者104名 (△) コロナ禍でオープンキャンパスの多くが実施されず (ー) コロナ禍で外部模試の多くを自宅受験で対応 1年4回/2年4回/3年7回 (◎)
(1) 開かれた学校づくり 地域連携	<p>ア 地域の小中学生や住民に対する科学講座、英語教室の実施</p> <p>イ 堺市等との連携</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学生対象の科学講座、英語教室等を定期的、継続的に実施する。また、夏期休暇中に自由研究の指導なども行う。 地域住民対象に、自然観察講座や実験講座を開催する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元の福祉施設への訪問や地域活性化のためのイベント運営等、各種ボランティア活動に積極的に参加する。 SDGs の目標達成のために自分たちができることを課題研究として実施する。ゴール11「住み続けられる街づくりを」をテーマの一つに設定し、「私たちが住む堺市を、環境、人権、生き甲斐などにおいて世界に誇れるモデルタウンにする」という目標を持って社会貢献できる取組みを追求する。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種小中学生対象講座等への参加児童生徒数合計300名以上 地域住民対象の講座の実施 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携による校外での活動3件以上 校外での発表等のべ5件以上 (R1:4件) 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で参加数を制限 泉北子ども科学教室(8月)31名 若松台中学校3年対象科学教室(10月)111名 泉北子ども科学フェスティバル(12月)97名 (○) 地域住民対象の講座はコロナ禍のため実施せず (ー) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携による校外での活動17件 (◎) 校外での発表6件 (○)
(2) 学校広報活動の充実	<p>ア 学校説明会の充実と情報発信</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事報告、校長ブログ、クラブブログ等を学校HPに掲載し、学校の様子をほぼリアルタイムに伝える。 学校HPの役割を明確にして、在校生保護者の利便性を高め、SSH 校間の連携を強化する。 メール配信システムを活用し、保護者への学校行事活動の周知を行う。 体験授業やクラブ体験など、学校説明会を充実させる。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校HPの更新100回以上 (R1:134回) SSH ホームページの開設 メール配信回数60回以上 (R1:75回) 校内学校説明会への参加生徒数合計600名以上 (R1:609名) 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校HP更新155回 (◎) 学校HPにSSHのサイトを設置 (○) メール配信回数130回 (◎) コロナ禍のため校内学校説明会は2回予定のところ11月に1回のみ実施 参加生徒数519名 (○)
5 活気と規律があり、生徒が安心して生活できる学校づくり	<p>ア 校内の支援組織の整備</p> <p>イ 部活動の活性化と学習と部活動の両立の促進</p> <p>ウ 基本的な生活習慣の確立</p> <p>エ 生徒会活動の活性化</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生活支援カードを活用し、情報共有を図るとともに個別の支援を必要とする生徒への包括的な支援体制を充実させる。 相談室機能を充実させ、課題や悩みを抱える生徒の状況把握などに組織的に取り組む。 いじめアンケートを活用するとともに、いじめ防止対策委員会による検討会議等を実施し、いじめの未然防止に努める。 防災訓練(年2回)とともに安全点検(学期終了時)や救急処置講習会等を実施し、防災安全に努める。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生対象の体験入部など、部活動の活性化に向けた取組みを実施する。 部活動参加者の進路実現に向けて、学習意欲向上に向けた分析と対策を実施するとともに外部模試の自宅受験を活用する。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻の実態調査と原因分析を行うことにより遅刻を減少させ、生活規律を向上させる。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事やボランティアなどの体験的活動の充実を図るとともに、生徒の自主的な運営を支援する。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援会議の隔週開催 学校教育自己診断(生徒)における「相談体制」の肯定率60%以上 (R1:61.8%) いじめ発生件数0件 (R1:0件) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 入部率85%以上 (R1:79.4%) 学校教育自己診断(生徒)における「部活動と学習の両立」の肯定率60%以上 (R1:55.4%) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数年間2,000名以下 (R1:2641名) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生徒の生徒会行事参加」の肯定的回答80%以上 (R1:75.1%) 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援会議隔週開催 (○) 「相談体制」肯定率60.8% (○) いじめ発生件数1件 (△) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 入部率88.8%(7/1現在) (◎) 「部活動と学習の両立」肯定率58.8% (△) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数2681名 (△) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生徒の生徒会行事参加」肯定率80.9% (○)
(1) 教員の資質向上のための職員研修の充実	<p>ア 教職経験の少ない教員のスキルアップ</p> <p>イ 職員研修の実施</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職経験3年めまでの教員を対象とした研修を実施し、若手教員の資質向上を図る。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員人権研修を計画的に実施し、教員の人権感覚の向上に努める。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年め研修の各学期1回以上の実施 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員人権研修の年2回実施 (R1:2回) 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 初任者及び3年目までの教員対象の研究授業を実施 (○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員人権研修をコロナ禍のため1学期に実施できず11月に実施)テーマ:同和問題 (○)
(2) 教員の働き方改革	<p>ア 時間外勤務の縮減</p> <p>イ 業務のスリム化と柔軟な勤務時間の割振り</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ノークラブデー、一斉退庁日を活用し、時間外勤務の縮減を図る。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な方策による働きやすい職場環境づくりをめざすとともに、電話当番等における時差出勤の積極的活用を図る。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 1ヵ月の在校等時間60時間以内の教員数9割以上 (R1:93.5%(58/62名)) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 時差出勤活用教員数のべ20名以上 (R1:18名) 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 在校等時間60時間以内の教員数88.6%(のべ565/638名) (△) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 時差出勤活用教員数のべ96名 (◎)